



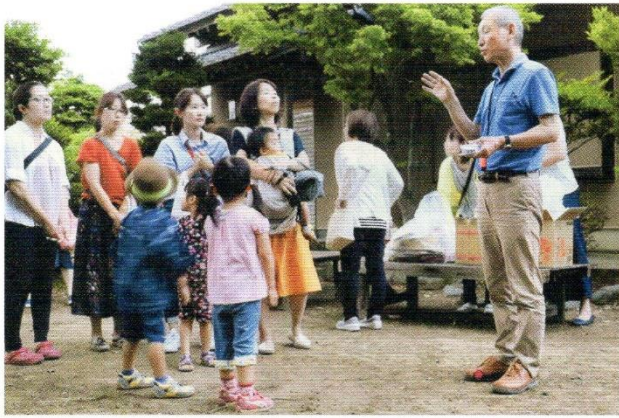
# ホタルのともしび



埼玉第2部会  
高野橋 章さん

## ホタルで交流

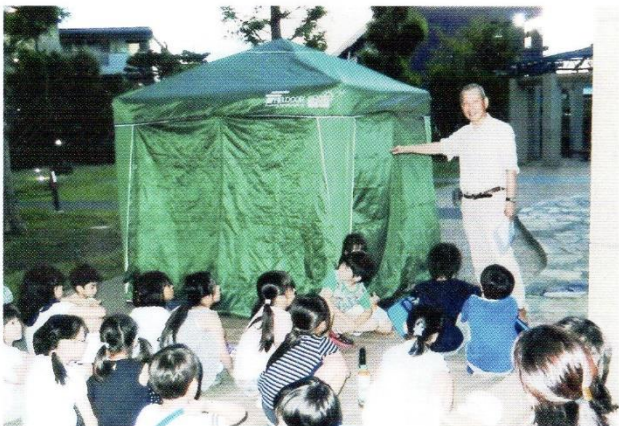
私は、さいたま市南区に居住し、ホタルを飼育しています。ホタルは地元見沼のへいけ蛸です。関東地区では、ホタル前線が北上してきた6月が発光の季節です。光るのは夜8時ころからです。



協力者の庭で鑑賞会



旧家の庭で鑑賞会



鑑賞前の説明



公園での鑑賞会

ホタルは子供たちと見るのが一番。鑑賞は公園や大きな屋敷の庭です。7時ころから見られるよう、街灯を消し、テントを張って、その周囲を覆い、ホタル籠を設置します。

子供も大人も「光っている、光っている」と籠を囲んで大喜びです。テントから出て来ると、子供のころ過ごした田舎の思い出、家族や友人と旅行先でホタルを見た情景、自分も子供も今日初めて見たと礼を言う都会育ちの親、ホタルから今の自然環境を憂うる言葉、さまざまな感想が述

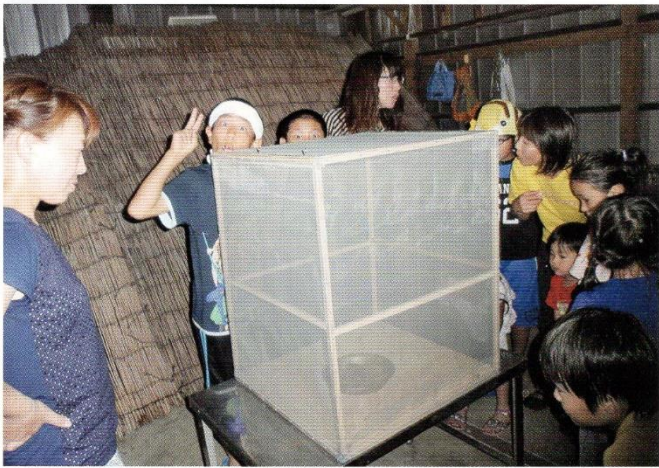
べられます。8時ころとなり辺りが暗くなってきたら、別途用意した産卵を終えたホタルを周辺の茂みに放します。子供たち（実は大人も）が争ってホタルを捕獲し、持参のペットボトルに入れ持ち帰ります。捕れなくて泣きべその子、ペットボトルが無くて右往左往する子。あつという間にホタルがいなくなりま

あとから来た人たちに見てもらえるよう、少しおいてから捕ってほしいと言っても全然聞きません。夕やみ迫る時間帯に嬌声が響く、地域交流のひと時です。不遜にも「西浦和ホタル回廊」などと名付けて、周辺の自治会と協力し、6月の週末に10か所ほどで開催しています。各自治会では、大人にビール、子供たちに菓子やジュースを振舞い、ホタル観賞を通じて近隣交

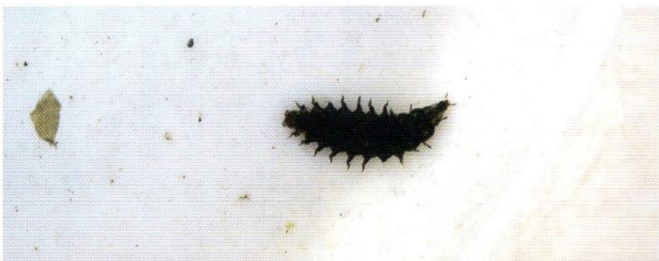
流を図っています。ホタルの命は1年です。5月に土の中に入り蛹になり、6月成虫となって土から出て発光します。生まれ出て3〜4日で産卵し、成虫は10日ぐらいの命です。6月終わるところから幼虫が孵化します。孵化は7月中続きます。孵化した幼虫は1齢で2ミリ程度です。幼虫は水槽で4回脱皮します。



暗くなりホタルを放すところ



テントのホタル籠



終齢幼虫

最終5齢幼虫は翌年4月末から5月初め蟬のように土に入ります。これが1年のサイクルです。幼虫のエサはタニシで、水槽の水は雨水です。今年には14000匹孵化し、最も多く生まれた朝は1446匹でした。毎朝スポイトですくい水槽に移します。

7・8月は2〜3日で水槽の水を替えます。水槽の汚れている水をいったんトレーに移し、汚れ、脱皮した抜け殻、ごみ、そこに紛れている小さな幼虫をじつと見つけ、そこから幼虫をすくいだし、汚れた水を捨てます。夏の暑い朝1〜2時間の作業です。

### 温度管理

飼育で大変なのが、水槽の浄化と温度管理です。水温が30度近くになったら全滅しますので、氷、保冷材で25度以下に保ちます。祭り、盆踊りなどで家を空ける時が要注意です。

エサのタニシの採集と管理も難儀です。採集してきたタニシを飼育しなくてはなりません。それが大変難しい。生息地は限られていますので、どうしても手に入らない場合、ネットで購入します。1キログラム4000円以上です。年間のタニシ消費量は15キログラム程度でしょうか。

### ホタルの縁

ホタル、タニシの飼育で、命の大切さを学んでいます。小さな生きものですが、ちょっとした原因で死に、不注意で流してしまいます。1匹ごとに命を感じます。タニシの縁で、友人も生まれます。タニシ生息地を知らせてくれる人。タニシを採集して届けてくれる人。鑑賞するとき、テントなど資材の運搬設置を補助してくれる人。

### 自治会活動

行きがかりで自治会長になりました。1年後に西浦和地区の連合会長(18自治会、約1万世帯)の役が廻ってきて5年目です。追い回されてフリーしています。ホームページ「内容2丁目自治会」をご覧ください。

生涯で働いて、先輩、同僚の皆さんに多くを教わりました。品質管理のこと、社内外ルールのこと、組織運営のこと、業務計画の立て方、人間関係の大切さ、ひとつひとつが役立っています。意義ある人生だったと深く感謝しています。

現役時代働いた会社の「企業年金受給者の会」の定期機関誌に掲載したものです。



表紙の写真：『潮目』  
(撮影：九州第1部会 岡本 秀一郎さん)

有明海は満潮と干潮の差が大きいと聞きます。太陽の斜光と、やがて満ちてくる海水の流れを撮りました。

カメラ:NIKON D3X  
データ:ISO100 絞りF8 シャッター1/400 レンズ24-70 F2.8